

陸上自衛隊 幹部候補生学校

OFFICER CANDIDATE SCHOOL
JAPAN GROUND SELF-DEFENSE FORCE



幹部候補生学校とは

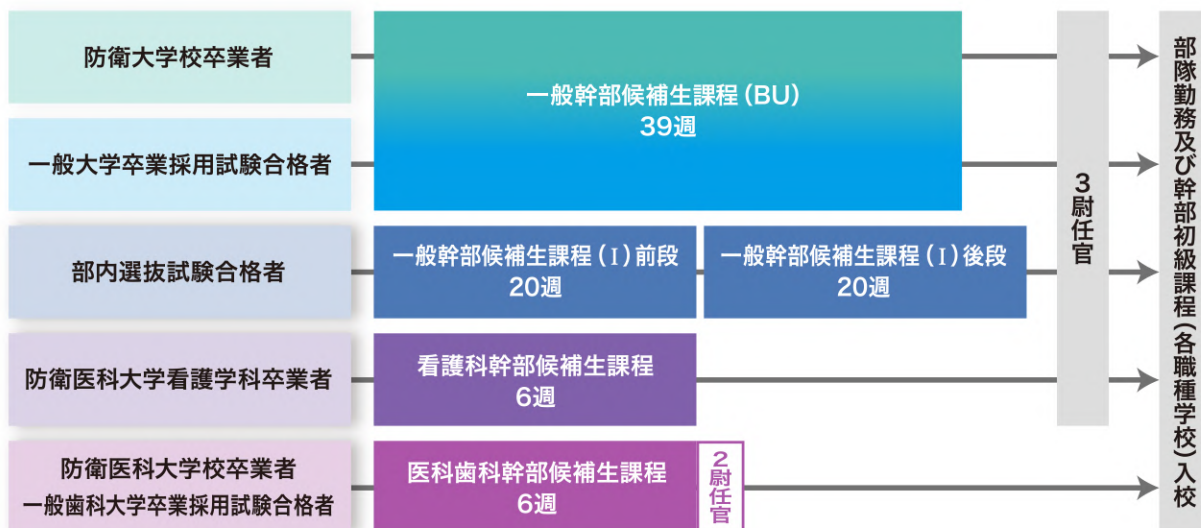
陸上自衛隊の幹部自衛官となるべき者が
最初に入校する教育機関で、全国唯一の学校です。

本校は、陸上自衛隊の幹部の登龍門であり、防衛大卒・
一般大卒・部内選抜者などの一般幹部候補生課程、医科
歯科幹部候補生課程及び看護科幹部候補生課程の教育を
担当している学校です。



大講堂

主要教育課程名と教育期間



学校のあゆみ

昭和26年 6月 神奈川県久里浜の「総隊学校」で
幹部候補生教育開始
昭和27年 3月 幹部候補生教育は「総隊学校」から
「普通科学学校」(久留米市前川原)に移行
昭和27年 5月 公募(一般大学卒業生) 一般幹部候補生の教育開始
昭和28年 5月 陸曹特別学生課程の教育開始
昭和29年 5月 衛生幹部候補生課程の教育開始
昭和29年 7月 「陸上自衛隊幹部候補生学校」発足

昭和30年 7月 高良山登山競走開始
昭和32年 4月 防衛大学校出身一般幹部候補生課程の教育開始
昭和33年 11月 防衛工学課程の教育開始
昭和36年 9月 学校の恒久駐屯地決定(S35)に伴い校舎の建替工事開始
昭和38年 10月 陸曹特別学生課程を3尉候補者課程と改称
昭和39年 3月 本部庁舎、大講堂、武道館等落成
昭和39年 7月 剛健の碑除幕
昭和40年 4月 衛生幹部候補生課程終了
昭和41年 7月 衛生工学課程終了
昭和48年 4月 幹部基礎課程(OPC)の教育開始



校風

開校以来受け継がれてきた「質実剛健にして清廉高潔」なる校風のもと、厳しい教育訓練を通じて、幹部自衛官として統率力に優れ国民に信頼され、世界に通用する人材の育成を行っています。



剛健五訓

(昭和47年制定)

誠実にして
怠る勿れ

闊達にして
偏る勿れ

勇敢にして
臆する勿れ

強靱にして
挫ける勿れ

謙虚にして
傲る勿れ



校風の象徴たる 剛健の碑

本校の校風「質実剛健にして清廉高潔」とは、「幹部に必要とされる質実剛健の気風」と「統率者に必要とされる清廉高潔なる品性」を兼ね備えた幹部候補生たる初級幹部を育成するための指標を意味するものです。

校歌

重松 恵三 作詞
丸山 豊 補作
斉藤徳三郎 作曲

一、青春の光ゆたかに
緑なす筑紫の野辺よ
眉上ぐる若人我ら
くるがねの誓いも固く
はつらつと心は燃えて
日本の平和を守る

二、南風の武勲たたえて
筑後川今日も悠々
質実に且つ剛健に
光輝ある伝統をつぎ
つわものの誠ささげて
日本の御楯とならん

三、紅に背振を染めし
夕日に向いて立てば
鍛錬の歳月たのし
栄光に輝く頼よ
明日もまた歩武堂々と
日本の未来をひらく



昭和49年 8月 教育隊編制化
昭和53年 8月 武装障害走開始
昭和54年 4月 礎の碑除幕
昭和55年 4月 一般幹部候補生課程 (WAC)、
医科歯科幹部候補生課程の開始
昭和56年 1月 女性自衛官防衛基礎学等集合教育開始
昭和61年 6月 幹部基礎課程 (OPC) 終了
昭和63年 3月 礎の碑移転
平成 7年 3月 WAC 課程終了 (防大出身者初の女性候補生入学に伴う)
平成 13年 8月 武装障害走を藤山武装障害走へ名称変更
平成 17年 7月 幹部基礎集合教育 (看護師) を開始

平成 18年 7月 幹部基礎 (看護師) 課程教育開始
平成 19年 4月 BU一体教育開始、I課程の前後段化教育
平成 19年 11月 BU課程の韓国研修開始
平成 21年 7月 韓国陸軍3士官学校研修受入れ開始
平成 26年 4月 剛健大講堂落成
平成 27年 4月 雄健史料館改修
平成 28年 4月 3尉候補生課程を各職種学校へ移管
平成 30年 4月 看護科幹部候補生課程の教育開始
令和 元年 7月 幹部基礎 (看護師) 課程終了
令和 3年 6月 I課程対馬現地教育の開始
令和 7年 7月 普通科部隊等実習を職種別部隊等研修へ課目変更

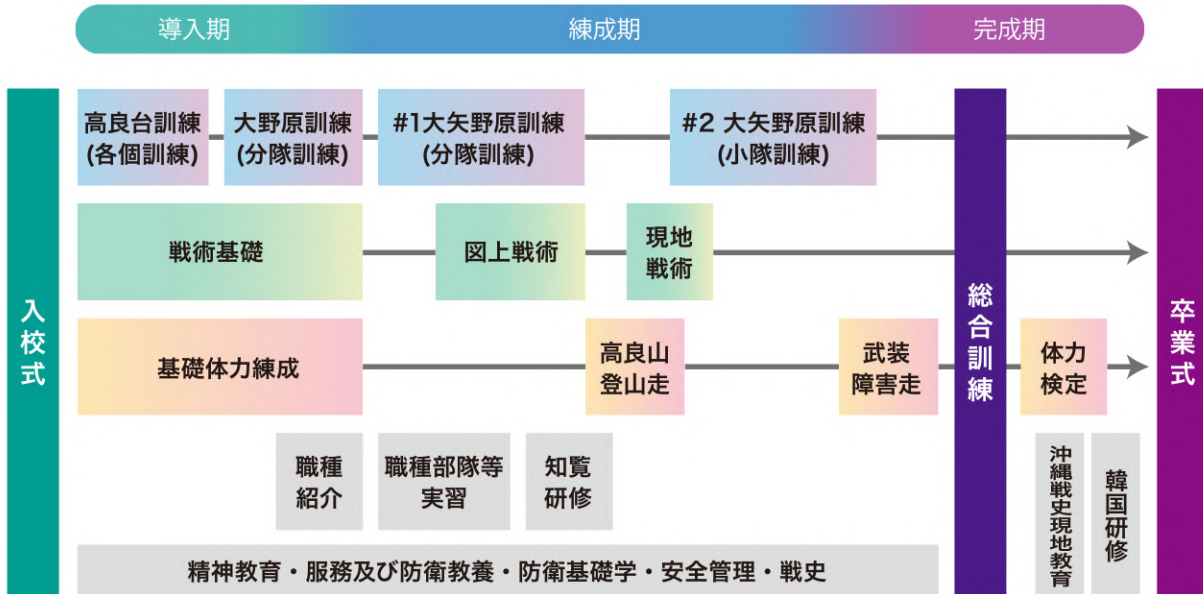


教育カリキュラム

(主要な訓練及びその順次)



実員指揮



BU課程の場合

主要訓練

幹部自衛官としての資質の養成
初級幹部として必要な基礎的知識及び
技能を修得。



1. 入学式

就学上の心構えを述べる学校長

校内の桜が満開の4月はじめ、防衛大学校・一般大学(BU課程)出身者や防衛医科大学・一般歯科大学・防衛医科大学看護学科及び部内選抜試験合格者(I課程:前期)が一同に合同入学式が行われます。また、部内選抜合格者(I課程:後期)は10月に入学します。

3. 大野原訓練

1コ分隊：10人程度

分隊長の実員指揮を練成

大野原演習場(佐賀県嬉野市)において、分隊長としての実員指揮、小銃分隊としての基本的行動に習熟するとともに、35km徒歩行進を行います。



2. 高良台訓練

1コ組：約3人程度

組長の実員指揮を練成

高良台演習場(福岡県久留米市)において、組長としての実員指揮、陸上自衛官としての基本的行動や基礎動作に習熟します。



9. 卒業式

使命感を胸に旅立ち

医科歯科幹部候補生課程及び看護科幹部候補生課程は5月、BU課程は1月、I課程(前段)は9月、(後段)は3月に本校を巣立っていきます。



8. 韓国研修

韓国士官候補生との交流

士官学校や戦跡等を訪ね、友好を深めるとともに、自らの任務の重さを実感、自衛官としての使命感と責任感を深く認識します。



7. 総合訓練

集大成となる訓練

不眠不休の100km徒歩行進

入校間の総仕上げとして、BU課程は11月、I課程(前段)は8月、(後段)は2月にかけて、完全武装による徒歩行進に引き続く戦闘訓練を行っています。



4 高良山登山走

力走する候補生

本校に入校するすべての学生が挑戦します。この行事は、開校の翌年昭和30年から続いている伝統行事の一つで、本校から高良大社までの距離5.6km、標高差156mのコースで競い合います。



6. 藤山武装障害走

限界に挑む武装走

BU課程は10月、I課程(前段)は7月、(後段)は12月に行われる伝統行事です。北の高良山、南の藤山と称される候補生にとっての試練の一つです。



5. 大矢野原訓練

小隊長の実員指揮を練成

1コ小隊：約30人程度

大矢野原演習場(熊本県上益城郡山都町)において、小隊長としての実員指揮、小銃小隊としての陣地攻撃及び陣地防御における基本的行動について習熟します。



教育訓練

幹部候補生学校は、
全員が校内にて起居する集団生活を通じて、
幹部としての資質を涵養し、
教養を培い身体の鍛錬を行います。



戦術教育

各種野営訓練



英語教育



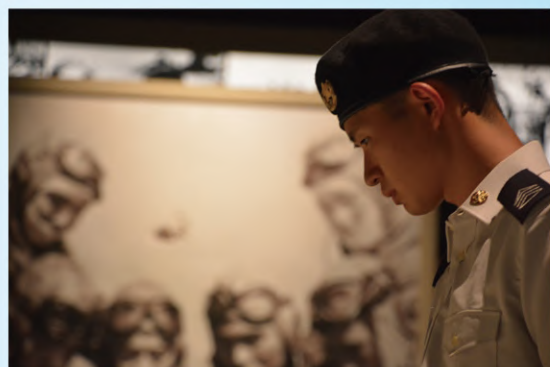
国防史



韓国研修



沖縄戦史等現地教育



知覧研修

日課時限

世界に通用する、本物・一流の幹部自衛官を目指して

区 分	時 間
起床	6 : 00
日朝点呼	6 : 05
朝食	6 : 20 ~ 7 : 10
課業開始 (国旗掲揚)	8 : 15 (祝日以外の土日を除く)
1・2時限	8 : 30 ~ 10 : 10
3・4時限	10 : 25 ~ 12 : 05
昼食 (休憩時間)	12 : 05 ~ 12 : 55 (休日等 12 : 00 ~ 13 : 00)
5・6時限	12 : 55 ~ 14 : 35
7・8時限	14 : 50 ~ 16 : 30
課業終了 (国旗降下)	17 : 00 (祝日以外の土日を除く)
自主練成時間	16 : 40 ~ 17 : 40
夕食	17 : 40 ~ 18 : 40
入浴	17 : 40 ~ 19 : 30
自習時間	21 : 00 ~ 22 : 50 (休憩 21 : 50 ~ 22 : 00)
日夕点呼	20 : 45 (休日等 22 : 20)
消灯	23 : 00
自由延灯	23 : 00 ~ 24 : 00



朝礼



授業 (座学)



訓練



自主練成



自習

地域との交流



水の祭典・久留米まつり

久留米市恒例の「水の祭典・久留米まつり」として市民総参加の夏祭りと言っていいほど毎年盛大に開催される「総踊り」に候補生が参加し、幹部自衛官「心のふるさと」前川原（久留米）としての良い思い出作りとなっています。



久留米は、 陸上自衛隊幹部自衛官の 「心のふるさと」です。



九州は、噴煙煙る阿蘇・雲仙・桜島の山々をはじめ、豊かな自然に恵まれ、情熱的で素朴・質実剛健の気風に富み、古来名将・勇兵を多く育てた尚武の地です。

久留米は、九州の北部、福岡県の南西部に位置する人口30万を超える中核市で、九州自動車道、大分自動車道、長崎自動車道のクロスポイントに近く、国道3号線のほか5つの国道が通る交通の要衝となっています。

明治時代から師団司令部をはじめとする多くの部隊が駐屯し、陸軍予備士官学校も置かれるなど、終戦まで軍都として栄えました。現在の幹部候補生学校は、久留米第一陸軍予備士官学校の跡地に昭和29年に発足しました。

久留米を中心とした筑後の地は、自衛隊に対する理解も深く、温暖で歴史そして水と緑豊かな街として、また、世界に誇るゴム産業や久留米絨など商工業でも活況を呈しています。

交通の案内

- JR久留米駅バス停から
西鉄バス「青峰団地」行き、
約30分「自衛隊幹部候補生学校」下車
- 西鉄久留米駅2番乗場から
西鉄バス「青峰団地」行き、
約20分「自衛隊幹部候補生学校」下車

